

令和3年度第2回住吉区区政会議での意見と対応一覧

【当日出された意見等】

グループディスカッション

- ・地域における「つながりづくり」について

Aグループ（今西委員、繁田委員、島谷委員、佃井委員、濱本委員、松田委員）

	意見内容	対応
①	<p>・コロナの影響により地域で実施していたイベントが2年間やれておらず再開できるか心配であるが、つながりづくりのためには、隣同士で声をかけあうなど、人と人が顔を合わせる機会が大事であり、できるだけ多くそのチャンスを作っていきたい。</p>	<p>〔地域課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代間を超えたつながりづくりのために、人と人が顔を合わせるイベントや催しなどの機会は大切なものであると認識しています。 ・コロナ禍においては、従来型での事業実施が難しい面がありますが、「すみよし区民まつり」をオンラインで開催したように、新たなイベントの型として誰もが参加できるようなイベントを工夫して実施していただけるよう支援していきます。 ・今年度、新型コロナウイルス感染防止対策物品について、地域活動協議会に対する補助金の交付の基準に関する要綱を改正し、100%補助となったため、必要な物品を揃え感染防止対策を講じたうえで、事業再開していただきたいと考えています。
②	<p>・地域と若い人とのつながり・コミュニケーションには大きな壁がある。若い人と高齢者に接点があれば、例えばワクチン接種予約をスマホが使える若い人に頼んだりできたのにともどかしい思いがしている。オートロックのマンションではインターホン越しでしか話ができないし、日中働いている人も多いので、若い人との接点をどんなどころで持つか、どうやって地域活動に若い人の協力を得るかが課題と考える。</p>	<p>〔地域課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動協議会では、「子育てサロン」や「ふれあい喫茶」「いきいきふれんどサロン」など、様々な年代が参加する活動を実施しています。 ・「ジャンボオセロ大会」（清水丘）や「オータムフェスティバル」（苅田）のように子どもが主となり親世代の参加も見込まれるイベントを実施し、参加した人にアンケートを実施するなど、若い人たちの考えや思いをリサーチしたうえで、今後の地域活動に活かしていくことも必要であると考えています。また、各地域のよい取組は、地域活動協議会会長会等の場でも積極的に情報共有を図っていきます。

Bグループ（大久保委員、辻野委員、林委員、東委員、宮崎委員、渡邊委員）

	意見内容	対応
①	<p>・見守り活動において、民生委員には支援台帳の提供がないので、詳しい情報がなく確認が取れない場合がある。個人情報保護は非常に重要であるが一方で大きな壁になっている。このような状況の中でつながるいい方法がないか知恵を絞っていかなければならない。</p>	<p>〔保健福祉課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要援護者支援台帳については、地域が一体となって日常の見守り活動や災害時の支援に取り組んでいただくという趣旨と、個人情報保護の観点から、区長と地域活動協議会会長が協定を交わしたうえで、地域活動協議会に対して提供しています。 ・各地域では、民生委員児童委員等、地域活動協議会の構成団体の方に、提供された台帳をもとに見守り活動等を行っていただいております、その際には台帳より地図に落とし込んだり、住所・氏名など必要最小限の情報で担当者ごとのリストを作成するなどご尽力いただいております。 ・しかしながら、見守り活動をより円滑に行ううえで、地域活動協議会会長の同意があれば、民生委員児童委員などの地域活動協議会の構成団体に住所・氏名など必要最小限のリストを提供することも考えてまいりますので、個別にご相談ください。
②	<p>・地域の団体間のつながりはできているようでできていない。いろいろな団体同士がつながることで、お互いの団体のことを知るようになり、いろいろな方とのつながりを持てるようになるのではないかと。</p>	<p>〔地域課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンターでは、地域活動協議会をはじめ企業、NPOなど、地域で活動する団体が互いに協力・連携しながら地域活動を進めることを目的とした「まちづくり交流ライブ」〔令和3年8月18日（水）〕をZoomの活用により実施しており、今後も地域における団体や企業・NPOとの連携を促進していきます。 ・各地域活動協議会は様々な団体で構成されており、地域活動を進めるうえで団体間のつながりは重要なことであることから、改めて全ての団体から代表者に集まってもらい、顔合わせや活動の共有などが行える場づくりの支援をしていきます。
③	<p>・SNSは、使う人使わない人それぞれいると思うが、特に学生はSNSでつながっているの、町会などでもこれからはSNSを活用して、いろんな人とつながりを持つ方法がないか模索してはどうか。</p>	<p>〔地域課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長居地域活動協議会では、Zoomを活用したリモート子育てサロン〔令和3年6月3日（木）、10月7日（木）〕を実施しており、地域活動協議会会長会等の場において情報共有を行ってきたところです。 ・まちづくりセンターでは、各地域での活動に役立てていただく取組として、令和3年12月8日（水）に「SNSで地域情報発信！～伝える“コツ”を知ろう～」を実施する予定です。 ・今後も地域の実情に応じたSNSの積極的な活用について、まちづくりセンターにご相談いただければスマホ教室やパソコン教室の実施など支援を行ってまいります。

Cグループ（鍛冶本委員、中野委員、福留委員、和田委員）

	意見内容	対応
①	<p>・町会加入率は約50%となっているし、マンションは管理会社が入っていたりオートロックということもあってなかなか昔のようなつながりが持てない中で、何とかそこから工夫してつながりづくりができないか。シンプルなものの方がいいとか、あいさつでコミュニケーションできてつながっているという話も出た。</p> <p>高齢者は高齢者、子どもたちは子どもたち、と縦割りの部分があるので、みんなで集まれるような場や機会も必要ではないか。</p> <p>また、防災には関心が高いので、関心の高いものにアプローチしていったらどうか。防災では、町会に加入していなくても手伝ってくれる人には参加してもらっているところもあると聞いたので、そういうことも必要と思う。</p>	<p>〔地域課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住吉区の町会への加入率が令和3年4月1日現在で約51.7%となっており、町会加入促進の取組として、住吉区へ転入の際に配布している「転入パック」に加入促進チラシを入れるとともに、区ホームページや広報紙に掲載し、呼びかけを行っています。 ・マンション住民向けの防災意識向上研修及び防災訓練への参加の呼びかけを通じて、町会へ加入の呼びかけを行っています。（コロナ禍においては、防災啓発資料の配付の際に町会加入促進チラシを同封しています。） ・各町会と連携して、マンション建設時から管理者等に町会加入の働きかけも実施しています。 ・今後も町会加入促進の取組として、保育所の受付時や乳幼児健診時にチラシ等で啓発するとともに、関心の高い「防災」をキーワードとした取組の実施に向け、町会及び地域活動協議会への支援を行っていきます。 ・コロナ禍では、多くの人が集まるイベントの開催は困難ですが、新型コロナウイルスの感染状況を勘案しながら、あらゆる世代の人が参加できるイベントの開催に向けて支援を行っていきます。
②	<p>つながりづくりを進めていくには、いったん手放したものを取り返していくことも必要ではあるが、やはり今あるものを活かしていくことが必要。各地域・町会の良い取組は徹底的に取り入れてやっていったら良いのではないか。</p>	<p>〔地域課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域活動協議会において、地域や町会、他区で行っている好事例の情報共有を行うとともに、町会をはじめとした各構成団体間のさらなる連携を強めるため、改めて全ての団体から代表者に集まってもらい、顔合わせや活動の共有などが行える場づくりの支援をしていきます。

③	<p>・地域で活動してくれる若い人が必要。子育て関係で町会に加入してくれそうな人もいるが、その人たちを束ねる人をつくっていくのが難しいという意見もあり、自分で動けるような、自立をできるような人を何とかしなければいけないと感じている。</p>	<p>〔地域課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育て」や「防災」など、関心や興味のあるテーマを取りあげた気軽に参加できるイベントを通じて、活動の担い手確保につなげていくことが重要であり、SNSや各地域活動協議会のホームページ、広報紙を通じて若い人にも参加してもらえる企画ができるよう支援してまいりますので、まちづくりセンターにご相談ください。 ・現在、大阪市立大学のご協力のもとコミュニティ防災人材プログラムへ地域にお住いの防災士に参加していただき、個々のスキルアップだけではなく、地域にお住いの方々に広めていただけるような人材になっていただく取組を実施しています。 ・大阪市市民局では、地域活動のさらなる活性化への支援を目的に、さまざまな専門知識やノウハウを持った「地域公共人材」を派遣（派遣費用無料）しています。この「地域公共人材」を活用して、地域活動へ若手の参加を促すための事例や工夫を学んでいただける機会を提供してまいります。
④	<p>・外国籍の方も増えてきておりごみの出し方などがわからなかったりするので、例えば食を通じた交流を外国籍の方に中心になってやってもらおうとかして、その人たちと交流を持てる場をつくってみてはどうか。</p>	<p>〔地域課〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の住民の方の地域活動への参加に向け多文化共生の取組として、平成27年11月8日（日）に様々な国の人たちと世界の文化やあそびを通じて楽しく交流する「KOTATSU PICNIC」を開催しました。 ・食を通じた交流も含め、「外国語講座」や「日本との文化の違い」等、外国籍の方が主役になれるようなイベントを開催することで、お互いのコミュニケーションが図られ、ごみの出し方などの日常生活に必要な知識を知るきっかけになるとともに、一層の地域コミュニティの活性化につながるものと考えています。 ・大阪市市民局では、ご近所に住む外国籍の方にちょっとした声かけや手助けのきっかけとして役立てていただけるガイドブック『多文化交流お助けガイド「何でも聞いてや!」』を作成しておりますので、ご活用ください。 ・外国籍の方が参加している盆踊り大会（苅田南）や神輿の担ぎ手（東粉浜）のように、各地域において外国籍の方も参加できる交流の場づくりを支援してまいります。